

令和3年度

健康福祉サービス自己評価結果報告書

報告書の内容

添付書類	添付した書類に○を記入
チェック済評価基準	○
評価基準概評	○
サービス改善計画	○

施設・事業所名：児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

健康福祉サービス自己評価実施状況報告書

令和 4 年 4 月 27 日

滋賀県健康医療福祉部障害福祉課長 あて

(所在地) 滋賀県大津市富士見台 54 番 40 号
(施設・事業所名) 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ
(代表者職・氏名) 代表取締役 富元 重幸

健康福祉サービス自己評価を、「本県における健康福祉サービス評価システムの推進について」により実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

1 施設・事業所の名称

株式会社 ピースラボ

児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

2 評価基準およびサービスの種別 (該当の記号に○印を付し、サービスの種別を記入)

○評価基準

ア 障害福祉サービス共通評価基準① [障害者/施設、グループホーム]

(種別:)

イ 障害福祉サービス共通評価基準② [障害者(児)/在宅]

(種別:)

ウ 放課後等デイサービス自己評価表

エ 児童発達支援自己評価表

オ その他の評価基準 (具体的に:)

※種 別 (記入例: 就労継続支援B型)

3 自己評価の実施時期 (自己評価結果をとりまとめた時期)

令和 4 年 4 月

4 県のホームページで、自己評価を実施した施設・事業所の名称、所在地、実施時期、事業所での評価結果の公表の有無を情報提供することについて

提供してもよい

・ 提供しないでほしい

5 自己評価結果の公表の有無（該当するところを○で囲む）

- | | | | |
|-----------------|----------------------------------|---|-----------------------|
| ①市町への送付 | <input checked="" type="radio"/> | ・ | <input type="radio"/> |
| ②滋賀県健康福祉事務所への送付 | <input checked="" type="radio"/> | ・ | <input type="radio"/> |
| ③県庁障害福祉課への送付 | <input checked="" type="radio"/> | ・ | <input type="radio"/> |
| ④施設・事業所内での閲覧提供 | <input checked="" type="radio"/> | ・ | <input type="radio"/> |
| ⑤インターネットのホームページ | <input checked="" type="radio"/> | ・ | <input type="radio"/> |
| ⑥その他の方法での公表 | | | |

（具体的に： _____ ）

6 サービス改善計画の公表の有無（該当するところを○で囲み、括弧内に記入）

- | | | | |
|-----------------|----------------------------------|---|-----------------------|
| ①市町への送付 | <input checked="" type="radio"/> | ・ | <input type="radio"/> |
| ②滋賀県健康福祉事務所への送付 | <input checked="" type="radio"/> | ・ | <input type="radio"/> |
| ③県庁障害福祉課への送付 | <input checked="" type="radio"/> | ・ | <input type="radio"/> |
| ④施設・事業所内での閲覧提供 | <input checked="" type="radio"/> | ・ | <input type="radio"/> |
| ⑤インターネットのホームページ | <input checked="" type="radio"/> | ・ | <input type="radio"/> |
| ⑥その他の方法での公表 | | | |

（具体的に： _____ ）

7 自己評価を実施して感じたこと、評価基準・ガイドライン等への意見やサービス評価について今後望むこと

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公)

公表:令和 4年 4月 25日

事業 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

保護者等数(児童数) 33 回収数 25 割合 75%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18	7	0		子どもの人数が多い時、もう少し広くても良いのかなと思います。	2階、庭、診療所を、今後とも臨機応変に活用していきたい。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	22	3	0			
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	16	9	0			
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	21	4	0			
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	19	6	0			
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	5	12	8			
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	25	0	0			
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	22	2	1		送迎時に今日の様子を伝えてもらえるとうれしい。	送迎時に於ける保護者とのコミュニケーションを、引き続き大切にしていく。児童の様子を伝え合う事については、パート職員にも再徹底していく。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	22	3	0			
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	9	13			
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	18	7	0			
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	23	2	0			
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	16	8	1			
	14	個人情報に十分注意しているか	24	1	0			
非常時 等の 対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	12	11	2			
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	12	12	1			
満足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	24	1	0			
	18	事業所の支援に満足しているか	23	2	0			

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要と思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。

放課後等デイサービスの概評について

1. 保護者等からの事業所評価について

75%の回収を得た（昨年は73%）。活動等のスペース確保と、設備面でのバリアフリー化の配慮については、「どちらともいえない」の回答が前者7名、後者9名と目立った。本年度、トイレと2階への階段に、手すりを設置したが、玄関の階段についてはまだであり、スロープ等を検討している。

職員配置数や専門性については、「はい」の回答がほとんどであった（「どちらともいえない」3名「いいえ」0名）。

「適切な支援の提供」に関しては、「放課後児童クラブや児童館との交流」「障がいのない子どもと活動する機会」について、「いいえ」が8名、「どちらともいえない」が12名であり、現実を反映している。コロナ禍で実施を目指す発想にはなかなか至らなかったが、今後の検討課題である。

「保護者への説明責任等」の部分では、「父母の会の活動の支援」「保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援」について、「いいえ」が13名、「どちらともいえない」が9名、「はい」が3名だった。保護者から保護者会の開催を望むご意見及び、それを望まないご意見はなかった。当事業所としては、保護者会開催の必要性をコロナ禍でもあり、あまり感じない側面はあるものの、今後保護者対象の「ピアカウンセリングとは何か」についての内部研修の実施を検討したいと考えている。

「苦情対応」については、「はい」が18名、「いいえ」が0名だったが、「どちらともいえない」が7名であって今後、より利用者と保護者の心情を察知・配慮した迅速丁寧な対応が求められると考えている。

「非常時等の対応」の部分では、思った以上に理解が得られていない回答を得たので、今後いろいろな機会を通じて周知を図っていきたい。

「子どもは通所を楽しみにしているか」では、「はい」24名、「どちらともいえない」1名、「いいえ」が0名。

「事業所の支援に満足しているか」では、「はい」23名、「どちらともいえない」2名、「いいえ」0名だった。

これらの結果に甘んずることなく、引き続き職員全体で支援の質的向上と、利用者・保護者との更なる信頼関係の構築に努めていきたい。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 4月 25日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3			2階、庭、時には診療所を使い工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	3			加配を考慮し(児童2名に対し職員1名)シフトを組んでいる。日により少ない(スタッフ確保)事がある。多く感じられる日もある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	1		順次、トイレや階段に手すりを設置したが、玄関の階段はまだ(高いのでスロープ検討)。トイレに段差もある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3			児発管と一緒に考えて取り組んでいる。パート職員まで伝わっていない事がある(システム化する)。朝昼のミーティングで職員同士の連携を図っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			一年に一回実施し、職員間で共有している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2		第三者(相談員や発達障がい者支援センター)と連携を取り意見を聞いて、少しずつ業務内容を改善している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			職員がローテーションにて研修を受け、他の職員に伝えている。外部研修を積極的に受講している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			児発管が保護者にアセスメントして計画を作成している。作成には、児発管を軸に職員全体が関わっている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			児発管と職員が共に考え利用者に合った学習グッズを購入している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			職員全員で検討している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			休日に工作、外出等を行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2			イベント以外、その日に決めている。細かいところは設定出来ていない。長時間利用時と放課後利用時によって変える必要がある場合は、設定している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5			集団性、社会性の課題がある児童の場合、設定している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			朝、昼の打合せを行っている。役割分担が出来ていない事がある。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	1		基本、職員が揃う翌日に行っている。伝言ボードも活用している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			日誌等に記録している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			児発管と一緒に見直しを行っている。6ヶ月に一回行い、新しい環境や変化のある場合、3ヶ月に一回実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			児発菅が、人員に余裕がある場合は担当することが多い。単独ではなく職員と参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5			学校に直接連絡して尋ねたり、保護者からの連絡にて確認している。学校へのお迎え時、必要に応じて行っている。電話連絡も取っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	1		主治医等との連絡はない(保護者からの連絡)。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5			利用者が在籍していた保育園に複数人で出向き、保育園と関わり方等を確認している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	1		対象者なし。まだ前例がないが、しっかり行っていく予定。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			可能な場合は出掛けている。大津市発達障がい者支援センター「かぼん」と連携している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	3		特になし。コロナ禍で実施出来ていない。近所の公園や小学校で偶然会い、一緒に過ごすことがある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	1		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			送り時に、その日の情報を伝えている。送迎時、お話しをさせて頂くことがある。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1			
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			契約時に行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			色々な悩み等を聞いた場合、職員間で共有・相談し児発菅を中心にアドバイスが出来るようにしている。相談があった場合は、それらを必ず行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4		プライバシー保護の観点から行いづらい面もある。必要性を感じないという保護者も少なくない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			苦情をクレームとしてではなく、支援の質的向上の糧として職員全体で情報共有し対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3			不定期だが発行している。コロナ禍で外出回数(行事)が減り、発行回数も減った。
	35	個人情報に十分注意している	5			鍵付きロッカーにて保管している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3		コロナ禍でもあり、現在は難しい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1	コロナ禍で自主訓練ということになってしまったが、行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		定期的に内部研修を実施し、外部研修にも参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4		どのような状況でも身体拘束は行っていない。身体拘束を適正に行う為の、マニュアルと同意書は作成している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2		保護者のモニタリングで確認した情報を、職員間で認知している。指導書発行にも金銭的負担が発生するので、アセスメント時に聴き取りをしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		職員の目に入る所に置き、見える化している。

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要と思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。

放課後等デイサービスの概評について

2. 事業所における自己評価について

8名の利用者の保護者から、提出期限内でのアンケートの提出がなかった。その後の提出もなかった。本年度は、昨年以上に提出期間を長く設定したが、今後は、回収率を高める工夫も必要だと感じる。

「環境・体制整備」の項目では、トイレと2階への階段の手すりを設置したが、トイレ内の段差と玄関の高い階段については検討が必要だと考えている。

「業務改善」では、今後とも全体ミーティング（内部研修を含んだ）等を通じて正職員とパート職員との連携を深め、支援の質的向上を図っていききたい。また、引き続き相談員や発達障がい者支援センターとの連携を押し進めていききたい。

「適切な支援の提供」については、児発管主導のケースカンファレンスと内部研修をより充実させていききたい。

「関係機関や保護者との連携」では、各学校との情報共有の質的深化に向けて各学校への働き掛けを強めていききたい。

「保護者への説明責任等」に関しては、児童や保護者からの「苦情」対応の適正化に向けて、第三者を加えた「苦情処理委員会」の設置について検討していききたい。

「非常時等の対応」では、今後とも利用者に対する虐待防止・人権擁護の内部研修を、全パート職員の出席を含めて企画し、同時に外部研修に対しては職員全員が積極的に参加していく。

サービス改善計画書

策定日：令和4年4月25日

事業・サービス名：放課後等デイサービス

施設・事業所名：ハイタッチ

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
		働き易い職場環境づくり	職員相互の更なるコミュニケーションの推進	1年間	富元	
		職員同士の連携	「報・連・相」の徹底 パート職員との連携	1年間	富元	
		職員の資質向上	内部研修の企画 外部研修への積極的参加 朝昼のミーティングの充実	1年間	富元	
		リスクマネジメント意識の向上	障がい（特性）理解 専門性（援助スキル）の向上 「ヒヤリハット」の見える化	1年間	山田	
		健康・衛生管理の徹底	日常的健康管理の徹底 感染症予防意識の向上と対策の徹底	1年間	岩瀬	
		環境整備	危険個所の点検 バリアフリー化の推進	1年間	池本	
		各種マニュアルの周知	保護者への周知 避難訓練等の事前・事後報告	1年間	岡崎	

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 4年 4月 25日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

保護者等数(児童数) 1 回収数 1 割合 100 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	1	0	0	0		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	0	0	0	1		質の高い専門的な支援の積み重ねによって児童とその保護者への信頼関係を築き、その中で理解を得ていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	1	0	0	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	1	0	0	0		
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	0	0	0	1		児童とそのキーパーソンとのコミュニケーションを深め、それぞれのニーズを適時点検・再確認していく。
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	0	0	0	1		相談員や発達障がい者支援センターとの連携を進め、支援内容の点検を行う。
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	1	0	0	0		
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	1	0	0	0		
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	0	0	0		
保護者 への 説明等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	1	0	0	0		
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	1	0	0	0		
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	1	0	0	0		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができてきているか	1	0	0	0		
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	1	0	0	0		
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	0	0	0	1		
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	1	0	0	0		

	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	1	0	0	0		
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	1	0	0	0		
	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	1	0	0	0		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	1	0	0	0		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	1	0	0	0		
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	1	0	0	0		
	23	事業所の支援に満足しているか	1	0	0	0		

児童発達支援自己評価表

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 4月 25日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1		2階と、時にはガレージを使っている。
	2	職員の配置数は適切であるか	4	1		利用者により、加配を考慮してシフトを組んでいる。多いと感じられる日もある。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1		玄関の階段はまだだが、トイレや階段の手すりは設置した。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	0		年齢や、障がい特性に合わせた玩具を用意している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1		児発管と職員が一緒になって取り組んでいる。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1		対象者がいる場合は、ホームページで公開していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1		ローテーションを組み、全ての職員が順次参加出来るようにしている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0		児発管を中心に、アセスメントの内容を職員間で情報共有し、職員全体で児童及び保護者のニーズや課題に沿った支援計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1		児発管と職員が一緒に検討し、利用者に向けた学習グッズを購入している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1		基本、曜日(休日)が固定し終日利用なので公園に出掛けることが多い。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	0		

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0		朝と昼のミーティングで行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2		職員が揃う翌朝に行っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0		日誌等に記録している。
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0		
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	2		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	3		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1		児発管を中心に、職員間の情報共有に努めている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	2		どちらとも言えない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	2		
保護者への説明	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0		送迎時に、コミュニケーションを図るよう意識している。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	4	1		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0		

責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4	
非常時等の対応	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	2	不定期だが発行している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	書類関係は、鍵付きロッカーにて保管している。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	0	
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1		
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0		
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1		
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	見える化している。	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0		
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	0		

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要と思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。

児童発達支援支援の概評につて

2. 事業所における自己評価につて

「環境・体制整備」の面では、トイレと2階への階段に手すりを設置したが、玄関の階段は未設置。今後検討が必要だと考えている。

「業務改善」については、本年度全正職員のみならずパート職員を招集した「全体ミーティング」を開催した。様々な障がい特性を有する全ての利用者に対する虐待防止・人権擁護に向けた内容と、パート職員に「やって欲しい事」（勤務心得）を伝え、正職員とパート職員との連携をより図っていく為の内容とした。今後も、そうした取組みを充実させていきたい。

「適切な支援の提供」については、引き続き内部でのケース検討等を通じて本人理解をより進めていきたい。また、各利用者との関わりについて配慮を要する点をパート職員にも周知徹底していく。

「関係機関や保護者との連携」の部分では、保育園に見学に行き児童の日常の様子や課題、家庭環境の把握に努めた。また、進学する小学校での関係者が一堂に会したケース会議に出席して、本人理解を深めると共に当事業所としての役割を関係者に示し、お互いの連携の必要性を相互理解・確認する場となった。

「保護者への説明責任等」では、契約時に出来るだけ保護者の認識に即して説明をさせて頂いたせいか、「保護者同士の連携が支援されているか」以外、全ての項目に「はい」を頂いた。

「非常時等の対応」については、全項目に「はい」の回答を得たが、引き続きマニュアルの周知徹底によって更なる理解を得ていきたい。

サービス改善計画書

策定日：令和4年4月25日

事業・サービス名：児童発達支援

施設・事業所名：ハイタッチ

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
		働き易い職場環境づくり	職員相互の更なるコミュニケーションの推進	1年間	富元	
		職員同士の連携	「報・連・相」の徹底 パート職員との連携	1年間	富元	
		職員の資質向上	内部研修の企画 外部研修への積極的参加 朝昼のミーティングの充実	1年間	富元	
		リスクマネジメント意識の向上	障がい（特性）理解 専門性（援助スキル）の向上 「ヒヤリハット」の見える化	1年間	山田	
		健康・衛生管理の徹底	日常的健康管理の徹底 感染症予防意識の向上と対策の徹底	1年間	岩瀬	
		環境整備	危険個所の点検 バリアフリー化の推進	1年間	池本	
		各種マニュアルの周知	保護者への周知 避難訓練等の事前・事後報告	1年間	岡崎	